

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成23年7月28日(2011.7.28)

【公開番号】特開2009-242767(P2009-242767A)

【公開日】平成21年10月22日(2009.10.22)

【年通号数】公開・登録公報2009-042

【出願番号】特願2008-153294(P2008-153294)

【国際特許分類】

C 09 J 133/00 (2006.01)

G 02 B 5/30 (2006.01)

C 09 J 11/06 (2006.01)

C 09 J 175/04 (2006.01)

C 09 J 7/02 (2006.01)

G 02 F 1/1335 (2006.01)

【F I】

C 09 J 133/00

G 02 B 5/30

C 09 J 11/06

C 09 J 175/04

C 09 J 7/02 Z

G 02 F 1/1335

【手続補正書】

【提出日】平成23年6月13日(2011.6.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

モノマー単位として、(a)アルキル(メタ)アクリレート34～94重量%、(b)芳香環含有(メタ)アクリレート5～50重量%、および(c)アミノ基含有(メタ)アクリレート0.01～0.5重量%を含有してなる(メタ)アクリル系ポリマー；並びに、

該(メタ)アクリル系ポリマー100重量部に対して、過酸化物0.01～2重量部およびシランカップリング剤を0.01～2重量部含有してなることを特徴とする光学フィルム用粘着剤組成物。

【請求項2】

前記(メタ)アクリル系ポリマーのゲルパーミエーションクロマトグラフィーによる重量平均分子量が、160万～300万であることを特徴とする請求項1記載の光学フィルム用粘着剤組成物。

【請求項3】

前記(メタ)アクリル系ポリマーが、さらに、(d)水酸基含有(メタ)アクリレート0.05～2重量%および/または(e)カルボキシル基含有(メタ)アクリレート0.05～3重量%を含有してなることを特徴とする請求項1または2記載の光学フィルム用粘着剤組成物。

【請求項4】

さらに、前記(メタ)アクリル系ポリマー100重量部に対して、イソシアネート系架

橋剤を 0 . 0 1 ~ 2 重量部含有してなることを特徴とする請求項 1 から 3 までのいずれかに記載の光学フィルム用粘着剤組成物。

【請求項 5】

前記(メタ)アクリル系ポリマーの分散比( $M_w / M_n$ )が 1 ~ 1 0 であることを特徴とする請求項 1 から 4 までのいずれかに記載の光学フィルム用粘着剤組成物。

【請求項 6】

前記アミノ基含有(メタ)アクリレートが、第 3 級アミノ基含有(メタ)アクリレートであることを特徴とする請求項 1 から 5 までのいずれかに記載の光学フィルム用粘着剤組成物。

【請求項 7】

前記芳香環含有(メタ)アクリレートが、フェノキシエチル(メタ)アクリレートおよびベンジル(メタ)アクリレートからなる群より選択される 1 種またはその双方であることを特徴とする請求項 1 から 6 までのいずれかに記載の光学フィルム用粘着剤組成物。

【請求項 8】

前記フェノキシエチル(メタ)アクリレートが、前記(メタ)アクリル系ポリマーを構成するモノマー全体の 5 ~ 2 0 重量%を占める特徴とする請求項 7 までのいずれかに記載の光学フィルム用粘着剤組成物。

【請求項 9】

前記シランカップリング剤が、アセトアセチル基またはアミノ基を有することを特徴とする請求項 1 から 8 までのいずれかに記載の光学フィルム用粘着剤組成物。

【請求項 10】

請求項 1 から 9 のいずれかに記載の光学フィルム用粘着剤組成物を塗工して架橋反応させることによって得られ、塗工 1 時間後のゲル分率が 5 5 ~ 9 5 % であり、屈折率が 1 . 5 0 未満であることを特徴とする光学フィルム用粘着剤層。

【請求項 11】

塗工 1 週間後のゲル分率が 6 0 ~ 9 5 % であることを特徴とする請求項 1 0 に記載の光学フィルム用粘着剤層。

【請求項 12】

塗工後、2 3 ~ 6 5 % R H で 1 週間放置した後、さらに 9 0 ~ 1 2 0 時間乾燥した後のゲル分率が 4 0 ~ 9 5 重量% であり、かつ塗工後 2 3 ~ 6 5 % R H で 1 週間放置後のゲル分率との差が 2 0 重量% 以下であることを特徴とする請求項 1 1 に記載の光学フィルム用粘着剤層。

【請求項 13】

光学フィルムの少なくとも片側に、請求項 1 0 から 1 2 までのいずれかに記載の光学フィルム用粘着剤層が形成されていることを特徴とする粘着型光学フィルム。

【請求項 14】

粘着剤塗工 1 週間後の保持力(H)が 2 0 ~ 3 5 0  $\mu\text{m}$  であることを特徴とする請求項 1 3 に記載の粘着型光学フィルム。

【請求項 15】

2 5 mm 幅として、無アルカリガラス板に前記粘着層を介して、2 kg ローラーで 1 往復して貼着し、2 3 ~ 6 5 % R H で 1 時間放置した後、9 0 度方向に 3 0 0 mm/分で引き剥がす際の接着力(F 1)が、1 N / 2 5 mm ~ 1 0 N / 2 5 mm であることを特徴とする請求項 1 4 に記載の粘着型光学フィルム。

【請求項 16】

2 3 ~ 6 5 % R H で 1 時間放置した後、さらに 6 0 ~ 1 2 0 時間乾燥した後に、9 0 度方向に 3 0 0 mm/分で引き剥がす際の接着力(F 2)が、2 N / 2 5 mm ~ 1 5 N / 2 5 mm であることを特徴とする請求項 1 5 に記載の粘着型光学フィルム。

【請求項 17】

請求項 1 3 から 1 6 までのいずれかに記載の粘着型光学フィルムを少なくとも 1 つ用了いたことを特徴とする画像表示装置。

**【手続補正2】****【補正対象書類名】**明細書**【補正対象項目名】**0008**【補正方法】**変更**【補正の内容】****【0008】**

耐久性向上、光漏れ改善、およびリワーク性の向上の為に、アクリルエステルと芳香環含有モノマーおよび水酸基含有モノマーを共重合してなるポリマーをベースとした粘着剤組成物も提案されている（特許文献8および9）が、分子量が低く分散度が高い為、耐久性は満足いくものではない。また再剥離時の汚染や糊残りの改善を企図しているが、軽剥離性ではなく、実用的には満足いくものではない。

**【特許文献1】**特開2003-329837号公報**【特許文献2】**特開2004-091499号公報**【特許文献3】**特開2004-091500号公報**【特許文献4】**特開2007-138147号公報**【特許文献5】**特公昭62-23287号公報**【特許文献6】**特許第3594206号**【特許文献7】**特許第3533589号**【特許文献8】**特開2007-138057号公報**【特許文献9】**特開2007-138056号公報